

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

研究 0-1

1. 学校教育学部・学校教育研究科

研究 1-1

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況	研究成果の状況	質の向上度
学校教育学部・学校教育研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している

学校教育学部・学校教育研究科

I	研究の水準	研究 1-2
II	質の向上度	研究 1-4

I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学部・研究科の研究目的を達成するため、教科内容学、高度な教育実践力の育成、大学と附属学校との共同、学校教育の今日的課題、国際的な共同学術研究の5テーマで研究活動を行っており、大学と附属学校との共同研究では、保育記録「遊誘財データベース」を開発している。また、学校教育の今日的課題の研究では、研究成果である予防教育プログラムを3府県の教育委員会と連携して、9府県のモデル校で実践している。
- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における研究成果の発表状況について、著書は合計315件、研究論文は合計2,218件、作品・演奏・競技は合計291件、学会発表は合計2,399件となっている。
- 第2期中期目標期間において、受託研究は年度平均0.8件、共同研究は年度平均3.5件、受託事業は年度平均18件実施している。

以上の状況等及び学校教育学部・学校教育研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学術面では、特に層位・古生物学の細目において卓越した研究成果がある。
- 卓越した研究業績として、層位・古生物学の「高精度編年学による年代測定の世界標準構築とマヤ文明の起源に関する研究」がある。この研究は、樹木年輪等を用いて年代測定の標準校正曲線を構築し自然史・人類史の高精度編年が可能となるとともに、これを応用してマヤ文明の移動集団の定住化とその起源を明らかにしており、国際的な学術雑誌で2件掲載されているほか、国内外のマスメディアで129件以上の報道がされている。また、研究成果に関する一般書を出版し、理科及び社会（世界史）の教科書に研究成果が掲載されるなど、社会、経済、文化面においても、卓越した成果をあげている。

- 社会、経済、文化面では、特に層位・古生物学、臨床心理学、教育学の細目において卓越した研究成果がある。
- 卓越した研究業績として、臨床心理学の「予防教育プログラムの開発研究」、教育学の「ドイツ教育思想史研究－フリードリヒ・フレーベルを中心に－」、層位・古生物学の「高精度編年学による年代測定の世界標準構築とマヤ文明の起源に関する研究」がある。そのうち「予防教育プログラムの開発研究」は、9府県のモデル校で実践され、3府県の教育委員会と連携を行っている。また、世界の多数の予防教育関連のセンターや研究者、教育者との共同で開発されてきたことも特徴で、国内のみならず国際的共同により生まれた研究成果である。

以上の状況等及び学校教育学部・学校教育研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、学校教育学部・学校教育研究科の専任教員数は148名、提出された研究業績数は36件となっている。

学術面では、提出された研究業績26件（延べ52件）について判定した結果、「SS」は1割未満、「S」は8割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績18件（延べ36件）について判定した結果、「SS」は3割、「S」は6割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1件の研究業績に対して2名の評価者が判定した結果の件数の総和）

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第2期中期目標期間の受託研究は合計5件、共同研究は合計21件、受託事業は合計108件となっており、受託事業は平成22年度の17件から平成27年度の23件となっている。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 層位・古生物学の「高精度編年学による年代測定の世界標準構築とマヤ文明の起源に関する研究」では、国際的な学術雑誌で2件掲載されているほか、国内外のマスメディアで129件以上の報道がされており、研究成果の一般書の出版、理科及び社会（世界史）の教科書への掲載等の成果をあげている。
- 国際協力機構（JICA）が行う国際協力事業に貢献・協力し、途上国の人材育成や社会発展に尽力した団体に与えられる JICA 国際協力感謝賞を平成25年に受賞している。平成27年度の受託研修の受入件数は10件となっている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。